
愛羅舞優

a Y a

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛羅舞優

【Nコード】

N5563A

【作者名】

aYa

【あらすじ】

私の彼氏はなんと妄想族ッ！！！！

もっと一緒にいたかったなあ…

俺は毎日後悔しています。

なんで手放してしまったんだろう…
どうしてあいつの気持ちをわかってやれなかったんだろう…

彼女に別れを告げてからもう6ヶ月がたったのに毎日頭に浮かぶのは彼女のあの可愛い笑顔。

離れて初めて気付いたあいつの大切さ…。

『こんなデカかったっけ…』

静まりかえった部屋…朝なのに真っ暗な感じがする。

もう一度…あいつの笑顔が見たい…。

「なあああにがあいつの笑顔がもう一度見たい…よッッ!!」

「うわッッ!!お前…いつからいたんだよ!!」

「俺は毎日後悔しています…辺りからもうすであんたの横にいたわよ!!」

「まじかよ!!うわぁゝ最低…すげえ頭ん中覗かれた気するぅ」

「ええ覗いたわあんたのキモイばかみたいな考えをね!？」

「ああッ!？んだとこのクソ女!!」

「黙れ妄想族!!」そう…私の彼氏は妄想野郎。

別にイヤらしい妄想ってわけではないんだけど…変わった妄想です。その妄想というのが私と別れた妄想…。

「あんたそんなに私と別れたいわけ!？」

「誰が別れたいなんて言っただよ!!?」

いつもこのことで喧嘩。

だって別れた妄想なんて嫌じゃない？

するんだったらもつとラブラブな妄想してほしい…。

「お前は何にもわかってねえッ!!!!」

「わかりたくもないわよ!!」

「わかってよ!!」

「嫌ぢゃあああ!!!!!!」

ガキっばいやりとりが延々と続く。

でも私にとってはこの時間さえも幸せだなと思ってしまっ
少なくとも…彼が側にいるから。

「お前ちゃんと俺がポロポロと溢しちまった妄想の塊聞いてたのか
よ!!」

「聞いていましたとも!!シツカリバツチリと!!」

「じゃあ俺がどんだけお前のこと好きかわかんだろ!？」

「は!？」

いきなり何を言い出すんだこのジジィわ…。
柄にもなく少しだけほんの1ミリくらいドキッとしたらうっが。

「知らないよ…」

今まで知りたくても…怖くて聞けなかった…。

「だから…俺はお前が俺のこと嫌いになろうがウザがろうが俺はずつとお前のこと好きでい続ける…！っていつくらい好きなんだよ！わかったかこのクソがああ…！！」

彼は頬を紅く染ながら叫んだ。

それと同様に私の頬も赤みを増した。

「い、意味わかんないから…！！大体！そんなくらい好きだったんならもつと幸せな妄想しなさいよ…！！」

「お前が俺のことフリそうで恐えんだよッ…！！」

19歳男子。

本体赤面。

「そりゃコッチの台詞よ…！！どんだけ好きだと思ってるの…！！」

19歳女子。

本体赤面。

「両思いじゃん」

「いやいや何年前に私達のハートが1つになったと思ってんのよ。今更両思いとかアホか。」

「黙れクソ」

「そんなにクソが好きならトイレで踏ん張って会ってこい」

ダメ！このままだとまた同じだ！！

私は1つ小さく深呼吸をして、彼の前に右手を差し出した。

「？」

「仲直りの握手…」

これだけでもドキドキする。

触れるという行為は私の心臓には強烈なことなわけで…ここだけの話しだが…まだキスもしていない。

2年も付き合ってるのに…なんか逆にキモイよね…。

「あ…ああ」

彼はそつと左手で私の右手を握った。

が、そのままグイッと彼の方に引っ張られ抱き締められました。

「な、なにッ！？／＼／＼」

「別に…／／／」

「仲直りのしるし??」

「いや…」

すると彼は少し私との間に隙間をあけると顎をクイツと持ち上げた。
その瞬間…生まれて初めての感覚が唇を包んだ。

「あ…」

「仲直りの…しるし…／／／／／」

私には妄想族の彼氏があります。

とても恥ずかしがりやでなかなか自分の気持ちを伝えられない人…。

それでも私は大好きです！

どんな形でも…彼の愛情を感じた今日この頃でした。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5563a/>

愛羅舞優

2010年10月12日12時09分発行